

ZENBUTSU

全仏



No.
535

仏暦2550年12月
[2007年]



(ラジギールのタンガ 撮影 白川 淳敬氏)

目次 ————— 論点・視点 ⑫ 脇本平也「宗教間対話」
加盟団体をゆく 第11回 真言宗犬鳴派
(財)埼玉県佛教会 新埼佛会館落慶式挙行
韓国にて、WFB国際会議開催

論点・視点 ⑫

宗教間対話

東京大学名誉教授 脇本 平也

近頃はあまり聞こえなくなつたが、二〇〇一年九月十一日の航空

機突入自爆事件のあと、ユダヤ教やキリスト教やイスラムなど外国の有力な宗教は一神教で不寛容であり紛争・戦争の種になりやすい、といったいわゆる識者の評言がテレビや新聞雑誌などにしばしば現れた。対して、日本の宗教は多神教であり、アニミズムやシンクレティズムだから寛容で協調的で平和的だ、というのである。自然に対しても、西欧人はこれを旧約物語的に人間に隷属するべきものと見て支配し征服しようとするが、日本人はアニミズム的に人間と同じく靈魂のあるものと見て優しく接しようとする。現代世界が直面している環境問題にとって、日本人の自然観の方が西欧人のそ

れよりもはるかに適切だ。こういった見解を、さらに展開して述べる者もあつた。

この類いの言説を目にして、私はちよつと危ないなと思つた。乱暴で安直な比較に基づいて、他人の宗教を貶めて自国人の宗教を自画自賛するのは、そのこと自体が不寛容の典型であり、根拠の乏しい傲慢な優越感にすぎないと直感したからである。それと同時に反射的に思い起こされたのは、日本が無茶な戦争に突入する直前の昭和十四（一九三九）年以降、旧制高校から大学宗教学科にかけての私の学生時代の記憶である。旧制高校というのは、要するに乱読の場であつた。手当たり次第に読み散らしているうちに、何やらぼーっと興味や関心の方向が見え始めてくる。私の場合は、哲学

やら宗教やらの本をあれこれ乱雑に読んでみるようになった。その延長線上で、大学は宗教学宗教学史学科に学ぶことになった。勉強の過程で、日本の宗教は西欧のキリスト教に比べるとどうも劣っている、遅れている、といったふうな論調に引き込まれていった。神道にしても仏教にしても、思想の実質的内容は靈魂崇拜や多神教で、唯一神教以前の未発達な段階にある。あるいは神も仏も一緒くたにした混淆信仰で、いまだ不徹底であり純粹でない。というふうな日本宗教自己批判の論説がかなり多かったように思う。

こうした宗教批判は、今から振り返ってみると、キリスト教的宗教進化論を背景にしたものではなかつたかと思われる。人類の宗教史は、アニミズムから始まり精霊崇拜・多神崇拜を経て唯一神教にまで進歩発達するという見方である。自然科学的進化論を宗教史にも適用した人類宗教史観であり、キリスト教には好都合であつた。これに加えて、カトリックを批判

して宗教改革を実現したプロテスタントに最も発展した近代的宗教の模範像を見る、といった見方も交じていたのではないかと思われる。

そこでたとえば、神道は八百万の神々というので多神教のように見えるが、実は天照大神にすべて収斂するので実質は一神教である、といった弁護論もあつた。また、仏教は汎神論でキリスト教的一神教よりもむしろ哲学的に進んでいる、といった反撃論もあつた。あるいは、日本仏教史上で西欧の宗教改革を成し遂げたプロテスタントに比すべきものは鎌倉新仏教だ、という見方はほとんど定説となつていた。そこに純一無雜にして個人の内面に確立された信仰の姿があり、ルターの「信仰によりてのみ」と共通するものがある、というわけである。この立場から、鎌倉以前や以後の諸仏教は未熟とか墮落とか批判的に評価されることになる。

およそ以上のような論説は、キリスト教文化圏の宗教観に照らし

合わせながら日本宗教を眺めようとするものだったといつてよいであろう。照合や比較それ自体は、方法として間違つてはいない。ただこの場合、相手方の価値観を基準に置いて自己批判を試みていると思われる点に問題がある。それはむしろ無意識的な、したがっていわば当然自然な操作だったかもしれない。なにしろ明治の文明開化以来、西欧的なものへの劣等感、少なくとも私の学生時代頃までは日本人の深層心理の奥深くに潜んでいたと思うからである。

ここで言いたいのは、アニミズム、多神教、シンクレティズムなどの西欧起源の同じレットルが、一神教に比べて、かつては未発達とか不純とか低く評価され、いまでは逆に寛容とか平和的とか高く評価されるというふうには、相反する宗教評論に利用されているということがある。そして、評論の背後には、論者の無意識的な劣等感や優越感が巣くついていると思われることである。劣等感も優越感も、ともに無意識の深層に複合形

成されるコンプレックスだから、実は相表裏して分かち難く結ばれ合っている。個人のレベルのみならず、歴史的に積み重ねられる民族レベルのコンプレックスもあるという。西欧への劣等感と八紘一宇の優越感との無意識的な錯綜が、先の大戦惹起の一因ともなっていたのではあるまいか。いずれにせよわれわれ人間が優劣コンプレックスを免れ難いという事態は、ここに取り上げた事例以外にも多くの例証を挙げられそうに思う。

私に与えられた表題「宗教間対話」とは、このような宗教的な優劣コンプレックスを自覚にもたらし、自覚することを通じてこれを乗り越えようと努力する営みの一つなのだろうと思う。「我が仏尊し」ともいわれるように、自分の宗教は自分にとって掛け替えのないものだ。だから他者の宗教と並べられると、つい優越感か、さらざれば劣等感に誘われやすい。優劣コンプレックスなしでは済まぬ、仏教的に言えば増上慢と卑下

慢、つまり末那職の我執なしでは済まぬということ、まず自ら認めて出発するところに、対話の第一歩が始まるのではなからうか。そして、相手の声に耳を傾ける、できるだけコンプレックスを抑制して虚心に聴く、という努力がこれに続く。対話とは、この努力を相互に交換することを第一義とする用語であろう。しかし、宗教は言葉による教理や思想だけでは終わらない。むしろ儀礼や修行の方が重要な意味をもつ。だから、相手のそれに参加して、耳に聴くだけでなく身に行ってみることも大切だろう。他人の身になつてみるという共感的理解は、実践的な参加なしには無理といえるのではあるまいか。

対話の最初の目標は、相手の身になつて相手を理解するという点に向けられる。しかし、宗教間対話を実際に何度も繰り返した経験者によると、対話の効果は他者理解の一方だけではないという。むしろより重要ともいえるのは、その他者理解がいれば逆方向に跳

ね返つて自己理解の深化を招くことだ、というのである。自分の姿は、鏡に映さないと見えて来ない。自分の宗教のありようをありのままに見るためには、他者の宗教に照らして見るが一番だ。そして、ありのままに自らを見ることは、さらに一步を深めて成長する自己変革の道に通じる。その意味で、宗教間対話とは、相互の宗教それぞれに自己変革の可能性を開く場なのだ。こう述懐する経験者の言葉を私はただ傾聴するのみである。

脇本平也氏（わきもとつねや）

一九二一年、岡山県生まれ。東京帝国大学文学部宗教学宗教史学科卒業。宗教学専攻。立教大学、東京大学、駒沢大学をへて現在、東京大学名誉教授・（財）国際宗教研究所顧問。

主な著書に『評伝清沢満之』『死の比較宗教学』、共編著に『宗教学入門』がある。

* 次回の「論点・視点」（一月号）

は、滋賀医科大学非常勤講師

長倉伯博氏にご寄稿いただきます。

加盟団体をゆく

《第十一回》真言宗犬鳴派

「加盟団体をゆく」第十一回目は真言宗犬鳴派を訪ね、東條仁哲管長にお話を伺いました。犬鳴山は一日体験修行に開放されているのみならず、犬鳴山温泉や四季折々の自然に囲まれハイキングにも最適な立地です。



東條仁哲真言宗犬鳴派管長

「宗派の活動で、継続的に、また特に力を入れていらっしゃる点についてお話し下さい。」

宗派としては最近特に力を入れている活動として、修験道の修行に同列してみたいという一般の方に犬鳴山修験者先達の指導のもと、犬鳴山の行場、拜所を回峰し、その後、行者ヶ滝で滝修行をする一日修業体験の活動を行っております。

本格的な修行体験に一般人が参加できるという取り組みは伝統仏教教団では非常に珍しいため、マスコミ等の取材申し込み、特にTVのお笑い番組等バラエティ番組の取材申し込みも多数あり、よほどの不都合が無い限りは積極的にお受けするようにしております。最近ではテレビで放送される宗教関係の番組のうち、約2割ほどが当山の修行体験の様子が放送されるまでになりました。

当然運営の苦勞もありましたし、行者も一般の方を指導するとすると勝手が違い、精神的にも肉

体的にも大変だったと思います。ですが、思わぬ効果もございました。修験の修行というものが広く世間にアピールされたため、修験行者の志望者が増え行者の年齢層が若返りました。また、行者も今までと違った経歴を持つ方、具体的にはホワイトカラーに従事していた方等の割合がとて多くなりました。そうした幅広い人材の育成こそが、市民との交流をより容易にし、寺院の持つ公益性に触れて頂けるきっかけとなるのではないのでしょうか。



一日修行体験の様子

また、修験に関するガイドブックを真言・天台宗の若手を中心として共同編集し、より一般の方にもわかりやすいガイドブックを現在制作中です。これも革新的な取

り組みだと思えます。犬鳴山という地を生かして、真言宗各派の繋がりのみならず宗派を超えた協力体制を今後も築いていきたいと思えます。

「昨今の様々な社会問題について、感じていらっしゃる思いをお聞かせ下さい。」

今の若い世代をTVゲーム世代、と呼ぶようになって久しいですが、今、中学生まで生徒の集まりで、「人が死んだら生き返ると思う人はいますか」という挙手アンケートを取ると、少なくとも4割が挙手をします。小学生では多しと7割を超えます。人を殺してしまっても生き返る、なんでもすぐリセットできると思っている人は我々の予想よりも遙かに多い、と言えるのではないのでしょうか。

TVゲームも結構ですが、運動して汗をかくことがなく、体を動かす感動を知らない、喜びや苦しき、痛みを本当の意味で実感できず、それが昨今の社会問題の要因となっているのではないでしょ

うか。

学校に代表される教育を受けるにしろ、犬鳴山の修行を体験するにしろ、聞いて学習した事・体験した事を自分の人生に置き換えていかないと意味がないと思います。教科書だけではない教育や実践を行っていき、それを社会問題の解消に繋げていかなければ、と思います。

—現在の仏教界と今後の仏教界の在り方について、指針のようなものをお聞かせ下さい。

未来永劫続く教えや、死後世界に関する教えももちろん大切だと思います。ですが、なかなか現実味が無く実感しづらいという方も多いでしょう。明日どう生きたらいい、今日どうしたらいい、といった、もっと現実的で泥臭い話を積極的に我々仏教者はしていかななくてはいけないのではないのでしょうか。

現在日本に約十八万もの宗教法人があるそうですが、その中で仏教系を選んでもらうというのはど

ういう事なのか。一ヶ寺に人が来て

てくれるという事は、十八万の中からたった一つのお寺を選んでくれた、という事なのです。来て見てくださいいいよ、というだけではいけないと思います。上からの指導をする、という発想ではダメで、一緒に考えてあげるといふ発想が大事です。仏教が何の為にあるのか、という根本に立ち返り、そうした理想を実現する為には、一般の人、苦勞して人生を生きさせた人を積極的に登用していくことが肝要ではないでしょうか。

寺院関係の集まりで話し合いをしていますと、個人単位では宗派を意識して、宗派の違いが問題になるといふ感覚はあまり無いように感じます。少子化や核家族化、教育などの問題、お寺に若い世代が来る機会が減少している事など仏教界を取りまく課題に関しての話をしても、皆それぞれ共通の問題意識は持っているように感じます。

ですが、プライドが高いのか、実際どうしたらという話がなかなか出てきません。言った人が損を

するのではないかと牽制しあう

ような空気を感じてしまいます。仏教者は信仰の根本はしっかりと置いて変わらないのですから、良いところをどんどん取り入れていって、開かれた寺院を展開していかなくてはならないでしょう。その為には、目先の小さなプライドを捨て、今までの方向性を変えても、積極的に発信を行っていく必要があるのではないのでしょうか。

—本年財団創立五十周年を迎えた本会の活動へのご意見・ご要望がございましたらお聞かせ下さい。

一般的に、会議というのは面白いもので、出席が多いほど意見が少なくなる傾向にあるようです。全日本仏教会は宗派や各団体が多く入っているため、意見収集を行う時点で相当大変なものではないでしょうか。加盟しているという認識すらない団体中にはあるでしょうし、寺院単位でも実感に乏しい所もあるでしょう。各事業に対する大方針は全日本仏教会が主導

で決めて、その周知徹底をはかる事こそが大切で、参画意識の向上にも繋がるのではないかと思います。

寺院関係者でも、自分が所属している宗派以外の法要を目にする機会はあまり多くないと思いますし、喜ぶと思います。五十周年記念式典や仏教徒会議のように、折々にそういったセレモニーを盛り込むのは非常に効果的かつ重要であると思いますし、これからも続けて頂きたいです。

また、予算面に関しては、例えば何かの事業を行う際に、百万の予算を二百万円分使えるよう協賛を募ったり、何らかの形で費用負担をお願いしたり、収益を上げるなどして元ある予算を自力で拡充できるように体制を構築していかなくてはならないでしょう。すぐには難しいかもしれませんが、予算を消費できれば良い、という感覚があるならば捨てなくてはならないでしょう。難しい注文が多いとは思いますが、意見は出してこそ意味があると思いますので、検討頂けたらと思います。(談)

浄土門主・知恩院門跡第八十七世仁譽俊映大僧正猊下
晋山奉告法要並びに祝賀会

十月十一日(木)、浄土門主・知恩院門跡坪井俊映猊下の晋山奉告式典が執り行われ、本会より安原晃理事長が参列した。



表白で晋山奉告をする坪井俊映猊下

午前十時三十分より、知恩院御影堂にて坪井猊下を導師に奉告法要が厳修され、半田孝淳天台座主、奥野誠亮元文部大臣より祝辞が述べられた。
法要後、午後一時三十分より、ウエスティン都ホテル京都に会場

を移し祝賀会が開催された。開演後、稲岡康純浄土宗事務総長の挨拶、宮林昭彦浄土宗大本山光明寺法主・大谷光真浄土真宗本願寺派門主・京都府知事代理よりの祝辞に続いて鏡開きが行われ、安原理事長の発声により乾杯となった。



乾杯の挨拶をする安原晃理事長

法要には約千五百名、祝賀会には約八百名の参列・参加者があつた。

真言宗智山派管長・総本山智積院第六十九世化主
大僧正阿部龍文猊下晋山式

十月十九日(金)総本山智積院において、真言宗智山派管長・総本山智積院第六十九世化主、大僧正阿部龍文猊下の晋山式が、真言宗各派・大本山をはじめ四百名を超える諸大徳の出仕を得て盛大に執り行われた。本会からは安原理事長が参列した。



上堂される阿部龍文猊下

晋山傳燈奉告法要に先立ち、午前九時から法燈を継承する「法流相承の儀」が大書院に於いて古式にのっとり執り行われた。

当日は、あいにくの雨の為、阿部化主が輿に乗り、金堂へ向かう行道はなかったが、職衆の集議・菩提院結衆は講堂から金堂まで行堂した。阿部化主は傳燈奉告文を

読み上げられ、学山智山の教風を宣布し、宗団と本山の隆昌に導く決意をお示しなされた。

続く式典に於いて、大矢實圓真言宗長者、鳥居愼眞言宗豊山派



傳燈奉告文を読み上げる阿部猊下

管長、上杉照延智山派教区代表会議長それぞれから、化主の今後のご活躍を期待する祝辞が述べられた。

尚、晋山披露祝賀会は午後一時半より、リーガロイヤルホテル京都で開かれた。

(財)埼玉県佛教会 新埼玉佛会館落慶式挙行



新埼玉佛会館

埼玉県佛教会の新たな拠点となる「新埼玉佛会館」が完成し、十月二十二日(月)、同会館において落慶式が挙行された。

「新埼玉佛会館」は、一階が多目的のホール、二階が事務所とご本尊が安置された会議室、三階は茶室と貸し会議室からなる三階建て。

同敷地内にあった「旧・埼玉佛会館」も解体され、三十台以上を停められる駐車場が完備されている。

落慶式には県内僧侶、工事関係者、招待者、約八十名が出席し、落慶法要・二階会議室のご本尊の開眼供養・新会館建設に携わった方々への感謝状贈呈・祝宴が執り行われた。

落慶法要の表白の中で、酒井文雄会長(本会理事)は「会館が埼玉における全一仏教運動の拠点となり、安らぎを与える場になれば」とし、会館建立、埼玉県佛教会設立の趣意を改めて強調した。



落慶法要で表白文を奉告する
酒井文雄会長

記念祝賀会では、安原晃本会理事長が祝辞(奈良慈徹社会人権部長が代読)の中で「日々惹起される諸問題に仏教会は、目を向け、社会へ提唱することが肝要」と述べ、埼玉県佛教会の益々の活躍に期待を寄せた。

酒井文雄会長、藤田得三副会

長、萩野映明副会長をはじめ出席者はよろこびを表すと共に、この会館を拠点とし、如何に仏法を広め、次代の人たちに伝導していく旨の決意を新たにしていた。

式典は県の青年会の方々が、法要雅楽、受付、会場案内、式進行係等、走り回り、埼玉県佛教会の願いが間違いなく伝導されている様子がみられた。

財団法人埼玉県佛教会

埼玉県佛教会は、活動を始めて、百三十年を迎えた。

一八六八(明治元)年三月に太政官布告「神仏分離令」、一八七〇(明治三)年の大教宣布など神道国教・祭政一致の政策によって、全国の仏教施設の破壊(廃仏毀釈)が行われた。埼玉県内でも寺院数が三八〇二ヶ寺から二二五

八ヶ寺へと激減。また、秩父事件にみる農民の痛みは極限となり、法を犯し投獄される者たちが激増、現在の教誨師活動の原点ともいう埼玉慈善保護院を設立、更生保護を進めた。さらに明治三十四年に埼玉慈善保護院を(社)埼玉自彊会(じきょうかい)と改称し、大

正四年に道場・事務所が完成した。先の大戦時には、戦時体制の下に置かれたが、戦後の昭和二十一年に埼玉県佛教会を発足。県内の宗教者連盟や仏教徒連盟の発足を促し、仏教保育協会の創立や青少年教化事業を進めた。

(社)埼玉自彊会の事業廃止に伴い、昭和四十五年同会の財産を埼玉県佛教会が引継ぎ、昭和五十年には、埼玉県佛教会館が落成された。

昭和四十三年十一月には埼玉県知事の認可のもと、財団法人となり、以来、地域仏教会の組織化や県内の檀信徒や門徒を含め、広く仏教教化に向けた様々な事業、殊には全一仏教運動の具現化に向けたを展開を進めている。



新たな会館の前にて
参加者全員で記念撮影

韓国にて、WFB国際会議開催

十月十一日(木)、韓国のコモドアーホテル慶州・朝鮮を会場に、WFB国際会議が開催された。本会からは戸松義晴WFB(世界仏教徒連盟)執行役員、及び壽山良光国際部長が代表として出席した。

WFBは原則二年毎に世界仏教徒会議を開催しているが、前回の台湾大会の折りに承認された長期計画によって、今後は仏教徒会議開催の年に小規模な国際会議を開催することになった。



提言をする戸松義晴執行役員(中央)

今回は第一回として「仏教の将来と仏教者の役割」をテーマに議論が行われた。戸松師は「平和実現への仏教徒の精神的な手段の再発見」をテーマに提言を行った。

また九月二十八日に、本会がミャンマー情勢の平和的解決に関してミャンマー政府等へ提出した要請文を朗読、約三百名の参加者からは大きな賛意が示された。

続いてWFBが今会議直前、同趣旨でミャンマー情勢に関して発表した要請書も披露され、その上で活発に討議が行われた。

これを受けた夜の交流会の席で、今会議の成果として、今後の世界情勢に対して非暴力・平和を根幹として対応する旨の仏教徒の基本姿勢が改めて確認・発表された。

また同席で、明年十一月十四日から十七日まで、東京・浅草で開催される第二十四回世界仏教徒会議について披露され、各国の参加者から期待が寄せられた。

救援基金より二百万円を寄託

平成十九年七月十六日、午前十時十三分に発生した「新潟県中越沖地震」は、柏崎市や刈羽村などで甚大な被害をもたらしました。まずもって、今回の地震でお亡くなりになった方々のご冥福を心よりお祈り申し上げますとともに、ケガをされた方、住宅等に被害を受けた多くの皆さんに、心よりお見舞い申し上げます。

本会では、九月十四日(金)安原晃理事長が新潟県庁に赴き、本会「救援基金」より二百万円を寄託いたしました。

白倉哲男局長は「三年前の「中越大地震」復興途中でもあり、私たちは力をあわせ、避難されている方の安全な避難生活の確保に全力で取り組み、被災されたみなさんの生活再建のためにこの「全仏救援基金」を大切に活用させていただきます」と述べられました。

皆様のご協力に感謝申し上げます。



安原理事長より白倉哲男新潟県会計管理者兼出納局長へ救援基金が手渡された

「救援基金」ご協力のお願い

本会では、国内外における災害救援や人道的支援に対し、緊急且つ迅速な対応をすべく「救援基金」を常時開設しております。つきましては、加盟団体・各御寺院・仏教徒の皆様、そして、宗派・宗教を超えて、皆様の暖かい浄財を左記口座までお寄せ頂きますようお願いいたします。

記

郵便振替口座 口座番号

00110-9-704834

口座名義 全日本仏教会 救援基金

お問い合わせ先

財団法人 全日本仏教会

電話 03-3437-9275

【寄付者】念法真教・真言宗須磨寺派
玉川仏教会・大阪府仏教会・黄檗宗
淀橋仏教会・徳島県仏教会・和宗
一隅を照らす運動総本部・江口智流
成願寺・佛敎大学佛敎青年会
浅草仏教会・福島県仏教会

(八月一日～十月三十一日)

(順不同・敬称略)

ご支援ご協力ありがとうございます。

仏教界を挙げて自死問題について考える為の シンポジウムが開催される

十月二十二日(月)十三時より、自死問題に関心のある仏教者及び一般を対象に「自死問題について考えるシンポジウムー日本におけるEngaged Buddhism (社会に関わる仏教)の可能性を探るー」が孝道山、大黒堂会館にて開催された。



発題する藤澤克己師

開会に際し主催となる国際仏教交流センター常務理事の岡野正純師より主催者挨拶が行われ、「日本におけるEngaged Buddhism、個人の内面的救いや悟りと同時に様々な社会問題に対して積極的に

関わろうとする仏教運動の可能性を探っていくとき、昨今大きな問題となっている自死問題への関わりを無視する事はできません。このテーマは二〇〇八年十一月開催の世界仏教徒会議日本大会に通じるものであります」という企画主旨が説明された。

シンポジウムは三部構成で、第一部で発題として、NPO法人の自殺対策支援センター「ライフリンク」に属す藤澤克己氏(浄土真宗本願寺派・安楽寺副住職)が講演。また、三年前に家族が自死した遺族南部節子さんが当事者として現在に至るまでの体験を訴えた。

「死にたくて死ぬ人はいない。自死は避けることのできる死である。」という事を認識することや、遺族が「私が自死を止めてあげられたのに、私が殺してしまっただ」という思いにさいなまれてしまっているので、その心のケアの難しさや大切さが訴えられた。

第二部として、自死対策の活動

事例として各氏の発表がなされた。

曹洞宗月宗寺住職の袴田俊英師は地元藤里町において寄り合いの場所「サロンよつてたもれ」を開設。地方農村部でも、実は農業が機械化して人と人との交流が薄れ、都会並に人間関係が希薄化している現状への危機を訴えた。

臨済宗妙心寺派の大禅寺住職根本紹徹師はインターネットを通じた自死対策を開始、その利点と問題点を発表。匿名という場での相談出来ないほど追い込まれた人の話を聞く為には現状ネットは有効である反面、自死希望者が集まり危険な集団と誤解される事、その対策の難しさを示唆していた。

曹洞宗長寿院住職の篠原鏡一師は寺院を二十四時間開放し、「自殺志願者駆け込み寺」として相談活動を展開。相当に苦労はあるが、仏教は生きている人のために説かれた教えであり、寺は生きている人こそ活用する場である、という信念を述べていた。

伝統仏教の取材を続けている毎日新聞記者の中村美奈子氏は市民

の寺院に向ける期待について発表。生きている人との繋がりがこそを寺院に対し市民は期待していると述べられた。



第三部 パネルディスカッション

第三部はパネルディスカッション。経済的な原因も自死に直接繋がってしまう社会の現状をふまえ、今後どのような対策や活動をするべきかが協議された。

自死問題に関しては、本会も本誌『全仏』五月号に記事掲載、また理事長談話を発表した。同テーマを、二〇〇八年十一月開催の世界仏教徒会議日本大会シンポジウムで取り上げる予定であり、今後も積極的に広報活動を充実させていきたい。

審議会・委員会 報告

社会人権審議会(全体会)

平成十九年十月十七日(水)、全日本仏教会二階会議室にて開催された。

十三時半開会。委員長導師のもと三帰依文を唱和。

その後、その後委員長と事務総長から挨拶があり、事務局から配付資料の確認があった。

続いて、委員長から答申(案)作成に際しての経緯説明があり、その後、議題に基づき審議を進めた。

各諮問に対して委員から意見を求め、若干の文言の変更について協議がなされた。

結果、大幅な変更はなく、答申(案)は了承された。

答申書の日付は本会理事長への提出日とすることで了承。

事務総局にて理事長及び社会人権審議会正副委員長の日程調整を行い、提出を決めることで了承された。



尚、この答申書は理事長に提出後、『全仏』一月号か三月号に答申書と委員長のコメント(答申に至った経緯説明等)を掲載することです承された。また、全仏ホームページには答申書のみ掲載することです承された。

その他、ミャンマー情勢に関する対応として、各宗教機関や各宗派の要請書等が、現状報告として事務局より配布された。十四時半に散会。

広報委員会

本会の広報事業に関する調査研究及び広報計画の立案を目的とした広報委員会が十一月五日(月)に開催された。

今回は、今年七月にリニューアルされた本会ホームページに関して、ホームページをより充実させるための方策が議題となった。

まずは各委員に行った事前アンケートをもとに、各団体でホームページ運用に関して特に工夫している点・留意している点が発表された。更新の頻度を保つ、鮮度の高い情報の掲載、閲覧者数増加の努力等々の各種取り組みについて具体的に検討された。

まずはターゲット層を絞ることが最重要課題である。第一段階として加盟団体をターゲットとし、加盟団体が興味のある情報、実益のある情報の掲載に努める。そうすることでホームページへのアクセス数を増やす事ができる。アクセス数を増やす事により、検索サイト(Yahoo・Google)等での仏



教関係の用語や情報の検索で今よりも上位に入れるようにする。そのことで一般の方にも本会のホームページが目につかれ、本会の認知度を高くすることにも繋がる。強いては加盟団体主催の行事等を広く認知してもらう事ができる。

これら事項を具体化すべく、広報委員会規定に基づいて、委員数名と広報文化部によりホームページ調査研究班を広報委員会内に立ち上げ、より専門的・具体的な検討を行ってはどうかとの検討がなされ、各委員の了承を得た。

年内には第一回のホームページ調査研究班の会議が行われる予定。

事務総局録事

十月(十一〜三十日)

- 十一日▼浄土門主・知恩院門跡晋山奉告 法要・祝賀会出席
- 十二日▼中外日報「座談会」出席
- ▼日本宗教連盟 税制要望書提出 (於自民党本部)
- ▼北條成之元理事長葬儀
- ▼無料法律相談室
- 十五日▼総務・式典合同部会
- ▼真言宗大鳴派取材
- ▼神奈川大会 パシフィコ横浜視察
- 十六日▼第五十二回全日本葬祭業協同組合連合会石川大会参加(於 金沢全日空ホテル)
- ▼局内会議
- ▼真言宗豊山派全国同和推進講習会参加(真言宗豊山派宗務庁)
- 十七日▼第四回社会人権審議会全体会
- ▼仏教英語プログラム
- 十八日▼部落解放同盟人権政策確立要求中央実行委員会第二十二回拡大役員会出席(於 松本治一郎記念会館)
- ▼仏教NGOネットワーク企画委員会出席
- ▼第二十二回「狭山」現地調査学習会参加(於 富士見集会所 至十九日)
- 十九日▼真言宗智山派管長阿部龍文大僧正晋山式参列
- ▼林潤衆議院議員(自民党) 秘書 来局
- ▼栃木県仏教会に全日本仏教徒会議開催の件で懇談(於 宇都宮 東武ホテルグランデ)
- 二十二日▼国際仏教交流センター主催「自殺問題について考えるシンポジウム」参加(孝道山大黒堂)
- ▼埼玉県佛教会会館落慶式参列
- 二十三日▼記念誌編纂部会
- 二十四日▼事務連絡会議
- 二十五日▼鈴木参議院議員(民主党)来局
- ▼無料法律相談室
- 二十九日▼全日本仏教婦人連盟大会参加(於パレスホテル)
- ▼神奈川大会の件でパシフィコ横浜へ視察
- 三十日▼二〇〇七年度部落解放・人権政策確立要求第二次中央集會参加(於 憲政記念館)
- 三十一日▼仏教英語プログラム
- 十一月(一〜十日)
- ▼日本宗教連盟幹事打合せ出席
- 一日▼事務連絡会議
- 二日▼WFB日本大会シンポジウムの打合せ
- 五日▼広報委員会
- ▼加盟団体代表者会議打合せ
- ▼中国大使館参事官来局

★今月の表紙について★
日頃エンジン付きの車ばかりに乗っていると、自然の風を浴びながら、蹄の音だけで軽やかに走るタンガは実に気持ちいい。それにしても見事に飾られたものだ。(ラジギールにて)

無料法律相談室

長谷川正浩顧問弁護士による、無料法律相談を毎月第二、第四木曜日の午後開催しております。本会事務局03(3437)9275へ事前予約の上おいで下さい。

哀悼

畔柳 正顕師(本会参与)
十月十六日遷化 七十九歳
浄土宗西山深草派 宗務総長

- 六日▼第四十二回大阪府仏教徒大会参加
- ▼神奈川大会について打合せ(於 パシフィコ横浜ベイホテル)
- ▼部落開放研究第四十一回全国集會参加(於 長野ビッグハット 至八日まで)
- 七日▼局内会議
- ▼総務財政審議会
- 八日▼WFB大会部会
- ▼神奈川県仏教会神奈川大会実行委員会出席(於 西有寺)
- ▼無料法律相談室

財団創立五十周年記念事業
特別協賛金寄付者御芳名

〔寄付者〕
(十月六日〜十一月二日)
建福寺・秋月院
日本仏教鑽仰会 藤城 尚
曹洞宗東京都宗務所
合計 三十二万円 (順不同・敬称略)

ご支援ありがとうございました。
皆様のご支援・御協力をお待ち申しあげております。

【郵便振替】
口座番号 00130-6-37600
口座名義 財団法人 全日本仏教会

【銀行振込】
三井住友銀行 浜松町支店
口座番号 普通 7082913
口座名義 財団法人 全日本仏教会

虹を翔るお坊さん「TOKYO BOUZ COLLECTION」

全日本仏教会後援

佛暦2550年(平成19)年12月15日(日)10:00~17:00(雨天決行)

会 場 築地本願寺(本願寺築地別院)東京都中央区築地3-15-1

お問い合わせ 東京ボーズコレクション実行委員会

電話 03-3541-1131(築地本願寺内)



仏教に関心をもつ人は少なくはありません。しかし仏教が何を教えているのかあまいで、よくみえない。それが仏教に魅力を感じることができない一因のようです。すべての人間、あらゆるいのち、あまねく存在が、意識するしないに関わらず、「縁」というきずなで結ばれている。それが仏教の出発点です。それを具体的にする活動が、「縁起プロジェクト」です。宗派を超え、僧俗を超えて、苦しみや悩みを越えてゆく道を、ともにつながって生きることを具体的に実感することのできるものとして行く取り組みです。

虹を翔るお坊さん

インドから発生した仏教という虹は、中国、日本と美しいアーチを描きながら国を超え、山河を越えてきました。

七つの色を持つ仏教という虹に、人々は救いを求め、安らぎを感じ、生きる希望を持ちました。

この日本社会の人々に、そして世界の国々に仏教という美しい虹をかけていくことを目指し『虹を翔るお坊さん』としました。仏教の架け橋をつくるのが、「縁起」プロジェクト『虹を翔るお坊さん』です。お坊さんには、色々な人がいて、各宗派によっても個性が異なるし、一人一人魅力的なお坊さんばかり。普段接することのないお坊さんとコミュニケーションをもってもらおうと考え、魅力的な各宗派のお坊さんを一堂に集めて「東京ボーズコレクション」を開催します。



<プログラム>

- * プンダリーカ・ライブ『杜子春』と東京ボーズコレクション法要『世界の平和を願う』
出演 天台宗・真言宗・浄土宗・浄土真宗・曹洞宗・臨済宗・日蓮各宗派の僧侶有志
- * 虹の子供広場「ノッポさん&キミちゃんとあそぼう!」出演 高見のっぽ氏、古家貴代美氏
- * いのちを生きる 出演 北條不可思氏、金田賢一氏・カノバンド
- * 佛教とはなんだ!! 法話 青山俊董尼/講演 永六輔氏
- * お坊さん学習塾「10年後のお寺をデザインしよう。」講師:末木文美士氏、小谷みどり氏
- * 築地歎異抄入門講座~歎異抄の魅力について~「念仏は無碍の一道なり」講師:山崎龍明

<参加イベント>

- * プチ修行と佛教相談
- * 世界にお布施! フェアトレードグッズ販売と国際協力バザー
- * ソトコト・ロハス・マーケット

大会の各プログラム、参加イベント等の詳細は、下記ホームページで確認できます。

大会ホームページ <http://www.engi.jp/tbc/top.html>

本会ホームページ <http://www.jbf.ne.jp/>